

# 黒部下ノ廊下山行報告

**【山行日】** 2016年10月28日～30日(土日)  
**【集 合】** 岩舟支所P AM3:00  
**【費 用】** マイカー1台 20,600円  
**【メンバー】** CL 鈴木 石川、岩淵、大西、香川、関、藤原、渡辺

29日 小雨 宇奈月駅からトロッコ列車で樺平まで行き、樺平から旧日電水平歩道を辿り、阿曾原温泉小屋に宿泊し秘湯の露天風呂を楽しむ。

岩舟支所 P3:00=宇奈月駅 P7:00/7:32+++樺平駅  
8:47/9:10～志合谷 10:00～折尾谷 12:30/13:00～  
阿曾原温泉小屋 15:00

今年5月に西の大杉谷を遡行し、秋は東の黒部峡谷を是非歩きたいと思い計画した。

このコースは、我輩が小学4年生の時社会科の教科書に載っていた黒部峡谷「十字峡」の写真を見て、ここに行きたいと思う思いを強く持った、我輩の登山人生の原点の場所である。



高速道乗り継ぎ、黒部ICで降り宇奈月駅前の駐車場に車を置く。駐車した車は、回送業者が明日までに扇沢へ移動させてくれる。宇奈月駅からトロッコ列車に乗り、樺平駅まで1時間15分の紅葉見物を楽しむ。

皆さん初めて乗る方が多く、思いがけないトロッコ列車の旅に大はしゃぎして写真を撮っていた。

樺平駅に着いても雨は止まず、レインウエアーの上衣を着て出発する。駅を出てビジターセンター手前から左手の登山道に登って行く。水平歩道に向け、高低差350mのシジミ坂を九十九折れに登って行く。

水平歩道に出たら、断崖に削られた単調な道を、針金を頼りにひたすら歩いて行く。

水平歩道の谷側は300mの断崖だが、紅葉の木々で目隠しされ高度感はほとんど感じない。小雨が降り続けているが、さほど気にならず紅葉を楽しみながら歩き続ける。短いトンネルを抜けると、対岸に水平歩道が横一直線に延びて行く様子が良く見え「ウワ～凄い」と歓声が上がる。少し進むと、仕合谷のトンネル入り口になる。

150mほどの暗いトンネルで、下は右側半分に水が流れている。ヘッドランプを点けトンネル内に入るが、暗くはつきり見えない。途中から道全体に水が流れ、靴が濡れないよう飛び石の上を歩くが踏み外し、水の中に落ちてしまう。水平歩道は以前より良く整備され、危険箇所は木の栈橋で安全に通過出来るようになっていた。



大太鼓と

呼ばれるV字型に曲がる岩を通過し、300mの高度感とスリルを楽しむ。しばらく進むと、前方に大きな滝が見えるようになり、折尾谷の砂防堤下をトンネルで渡る。少し先の、沢の岩場でランチタイムとする。本日の山ご飯は、キノコたっぷりのひもかわうどん。水平歩道は休憩場所が無く、やっと屋敷にありつけ朝から「ハラ減った～」と騒いでいた1 淵さんも美味しいと食べていた。ここからさらに水平歩道を2時間ほど歩くと急な下りになり、阿曾原谷を丸太の橋で渡ると阿曾原温泉小屋に着く。テント場を横切り、階段を上がるとお姉さんにハンガー2個を渡され、濡れたレインウエアーやザックカバーを乾燥室に掛ける。受付を済ませて部屋に案内され、本日は混雑し1枚のふとんに2名で寝ることになる。男



性は露天風呂に入れるが、雨の中200m下るのは面倒なのでパスする。着替えてから荷物を整理し、食堂で宴会が始まった。お酒を頼むと、一升瓶から注いでくれ少し多めに入れてくれた。宴会の途中で女性の入浴時間になり、女性達は露天風呂に向かう。5時を過ぎると、夕食の準備で食堂は使えなくなり、部屋に戻った。6時に「夕食の準備が出来ました」と声が掛かり、皆で食堂に向かう。

夕食は小屋自慢のカレーライス。皆さんは「美味しい、美味しい」と、お代わりをしていたが、我輩はお腹いっぱいでお代わりは出来なかった。部屋に戻って明日の準備をし、明日の早立ちに備えて早めに床に就いた。

**30日 晴れ 阿曾原温泉小屋から仙人ダム、S字峡、十字峡、白竜峡などの黒部峡谷核心部を通り黒部ダム までロングコースを辿り、黒部ダムからトrolleyバスで扇沢へ下る。**

阿曾原温泉小屋 5:00～仙人ダム 6:00/6:35～十字峡 8:35/9:00～白竜峡 9:30～別山谷出合 10:40/11:00～鳴沢小沢 12:20/12:50～内蔵助谷出合 13:40～黒部ダム 15:20/15:35～扇沢駅 15:51/16:20＝姨捨 SA17:20/18:00＝岩舟支所 P20:40

朝4時に起床し、外に出て空を見上げると星が瞬いていた。今日は天気予報通り、絶好の登山日和になりそうで安堵する。朝食弁当半分とパンを食べ、出発の準備をして外に出る。

場所が狭いので、ストレッチは各自簡単に行いヘッドランプを点けて出発する。小屋からいきなり200mの急坂を登り水平歩道を歩くが、毎回暗い中歩くのでこの間の景色は見たことが無い。権現峠トンネル入り口で頭をぶつけ、ヘッドランプが壊れた。皆は気づかず歩いて行ってしまい、暗闇の中一人手探りで歩き続ける。やっと我輩が居ないことに気づき、待っていてくれ追いつくことが出来た。列の真ん中に入り、前と後ろの人の明かりを頼りに歩いて行く。仙人ダムへ下るころ明るくなり、ヘッドランプ無しで歩けるようになる。仙人ダム下の人見平らに着くと、大きな建物が現れ関電人見宿舎の建屋だ。



平らな敷地をロープに従って歩いて行くと、ダム施設入口に出て案内に従ってダム堰堤上に出る。堰堤からの景色は雄大で、皆歓声を上げ写真を撮りまくる。素晴らしい景色を見ながら朝食とし、スープと宿の弁当で空いたお腹を満たす。温かいスープに弁当のご飯を入れ、雑炊風にして食べるととても美味しかった。堰堤を対岸に渡り、ダムの取り付道を進むと行き止まりになり、階段を上って東谷吊り橋を一人ずつ渡り対岸に出る。九十九折れの急坂を登り、再び水平歩道に出る。ここからは、S

字峡、十字峡、白竜峡の黒部峡谷の核心部が始まり、スリルと眺望を楽しみながら歩く。昨日の水平道は高度はあるが、木々が茂り恐怖感あまり感じなかった。しかし、ここからは高度は半分くらいだが下までまともに見え、高所恐怖症の我輩にはスリル満点の歩きが続く。峡谷も深く鋭く切れ込み、まさにV字峡谷を実感できるポイントだ。見上げると山の上部は霧氷で真白く輝き、紅葉と針葉樹の緑と三段染めが見られた。いったん大きく下り、沢の音が大きくなると剣沢を吊橋で渡り、登り返すと十字峡に着く。

広場にザックを置き、ロープを伝って降り十字峡のシャッターポイントの岩場に行く。ここは黒部本流と剣沢、棒小屋沢が十文字に交わる絶景が間近に見られるビューポイント。ここからさらに40分程進むと、黒部峡谷最大の難所、白竜峡を通過する。両側の岩壁が数メートルに迫り、巨岩の間を激流がほとばしり凄まじい光景が連続する。岩壁に付けられた道は狭く、恐怖と闘いながら歩いて行く。しかし本当に怖い箇所は木の栈橋が付けられ、以前から比べると楽に通れるようになっている。皆さんも恐々とした表情で歩いていたが、慣れてくるとスリルを楽しむ余裕が出てきた。最後の難所を丸太のハシゴと栈橋で越え、又単調な水平歩道歩きとなる。



黒部別山谷をロープで降り、川原で休憩を取りナンや菓子を食べエネルギーを補給する。別山谷を飛び石で対岸に渡り、ロープで登り返し日電歩道の歩きに戻る。新越ノ滝を過ぎ、鳴沢小沢のナメ滝を過ぎた先でランチタイムと

する。道から少し入った広場でラーメンを作り、弁当の残りと一緒にいただく。ここから一旦下り、河底を歩くようになり高度感を感じなく歩ける。水量豊富な内蔵助谷を長い木橋で渡り、平らな場所で休憩を取る。ミカンやかきんと



うを食べ、周りの紅葉を楽しむ。ここからK川さんに先行してもらい、トローリーバスのチケットを購入してもらう。我々のはのんびり歩き、1時間程で黒部ダムが現れる。栈橋を渡って対岸に渡り、ダム横の急斜面を九十九折れに登り、林道を進むとバスターミナルの入口に着く。トイレを済ませ、バスターミナルに着くとK川さんが待っていた。今回は観光客が少なく、すぐにチケットを購入できたようだ。すぐにトローリーバスに乗車出来、16分で扇沢のバスターミナルに着く。皆さんは駅の売店でお土産を買い、我輩は車の所に急いだ。一番下の無料駐車場に行き、愛車を受け取り料金を支払う。皆さんも駐車場所に降りてきて、荷物を車に積んで岩舟支所に向かう。

二日間、日本一の大峡谷のスリルと紅葉を堪能し、事故も無く無事に下山出来大満足の山行となった。

